

東京医師アカデミー クリニカルフェロー

放射線治療コース 募集要項

1) 応募資格	平成31年4月時点で5年以上の医歴があり、以下のすべての要件を満たしている方 ① 放射線科専門医の受験資格を有すること ② 放射線治療計画ガイドラインを熟知し、通常の放射線治療の計画をマスターしていること ③ 癌治療の専門誌に筆頭論文を有すること ④ 海外の学会で発表経験があること ⑤ 医師、メディカルスタッフ、並びに患者、家族と良好なコミュニケーションが取れること
2) 募集人員	1名程度
3) 所属先	東京都立駒込病院 放射線診療科治療部
4) 研修期間	3年間
5) 選考日	平成31年1月30日(水曜日)(予定)
6) 選考会場	応募者に直接連絡いたします。
7) 選考方法	個別面接(20分程度)、口頭試問(20分程度)
8) 合否連絡	選考後3週間以内に合否をご本人にご連絡いたします(合格通知後1週間以内に誓約書の提出をお願いいたします)。
9) 応募方法 提出書類	以下のものを申込期限までに下記11)の申込先に郵送すること ① 応募用紙兼履歴書 ② 医師免許証の写し ③ 認定医・専門医等の資格証明書の写し ④ 推薦状2通 ※提出いただいた書類はご返却できませんので予めご了承下さい。
10) 申込期限	平成30年12月21日(金曜日)必着
11) 申込先及び 問合せ先	〒163-8001 東京都新宿区西新宿二丁目8番1号 東京都庁第一本庁舎24階中央 病院経営本部経営企画部職員課医師アカデミー担当 (電話)03-5320-5861
12) コース内容 に関する 問合せ先	唐澤 克之 (東京都立駒込病院 放射線診療科部長) (電話)03-3823-2101(代表)
13) 備考	選考日当日は、医師免許証の原本を持参すること。

放射線治療コース

主たる研修病院 (所属病院)	がん・感染症センター東京都立 駒込病院	
連携して研修する病院・施設(予定)	大学院進学希望者は都内の各大学への受け入れ体制有り。また希望により国内外の病院に短期留学可	
研修時に必要とする知識・技量 (応募資格)	平成31年4月時点で5年以上の医師があり、以下のすべての要件を満たしている方 <ul style="list-style-type: none"> 放射線科専門医の受験資格を有すること 放射線治療計画ガイドラインを熟知し、通常の放射線治療の計画をマスターしていること 癌治療の専門誌に筆頭論文を有すること 海外の学会で発表経験があること 医師、メディカルスタッフ、並びに患者、家族と良好なコミュニケーションが取れること 	
コース 責任者	氏名(所属)	唐澤 克之 (東京都立駒込病院 放射線診療科治療部)
	資格名	放射線治療専門医 癌治療認定医 日本ハイパーサーミア学会指導医
	専門分野	放射線腫瘍学、呼吸器癌、消化器癌、泌尿器癌の放射線治療、高精度放射線治療
臨床指導体制	<ul style="list-style-type: none"> 当科は先進的な高エネルギー放射線治療装置7台を有し、年間治療新患者数約1300例、総治療患者数約1800例を数え、全国有数の病院である。また症例も偏りが無く、満遍なく各種疾患の放射線治療の研修が出来る。 放射線治療専門医は7名を数え、其々の専門分野で幅広く、奥深い指導が受けられる。また各種の臨床試験グループにも参加しており、リサーチマインドを持った指導医が多く、常に新しい治療開発に腐心している。 国際原子力機関(IAEA)の協力施設にもなっていることや、国際的にも先進的な治療が行われていることもあって、海外からの訪問者も多く、職員が目も海外へも向いている。 優秀な医学物理スタッフが揃っており、治療のクオリティは保証されている。 そして何よりも数多く行われているカンサーボードの多くで中心的な役割を果たしている。そのような中、積極的に学ぶ姿勢により、3年間の間に密度の濃い研修が行われている。 	
臨床研究	これまで 行ってきた 研究と実績	<p>JCOG0403, JCOG0702, JCOG1408を始めとした数多くのJCOG試験と肛門扁平上皮癌の化学放射線療法、子宮頸癌の定位放射線療法を用いた化学放射線療法、転移性脊椎腫瘍の定位放射線療法等の臨床試験、臨床研究を行って来ている。過去2年間の主な業績を挙げる。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) Karasawa K. Clinical problems on the PSA failure assessment and management for prostate cancer. Nihon Rinsho. 2016 2) Shimizuguchi T, et al. A comparison of clinical outcomes between three-dimensional conformal radiotherapy and intensity-modulated radiotherapy for prostate cancer. Int J Clin Oncol. 2017 3) Ito K, et al. Patterns of Intraosseous Recurrence After Stereotactic Body Radiation Therapy for Coxal Bone Metastasis. Int J Radiat Oncol Biol Phys. 2018 4) Kawamoto T, et al. Clinical outcomes and prognostic factors of chemoradiotherapy for postoperative lymph node recurrence of esophageal cancer. Jpn J Clin Oncol. 2018 5) Kawamoto T, et al. Comparison of xerostomia incidence after three-dimensional conformal radiation therapy and contralateral superficial lobe parotid-sparing intensity-modulated radiotherapy for oropharyngeal and hypopharyngeal cancer. Auris Nasus Larynx. 2018 6) Kageyama SI, et al. Radiotherapy increases plasma levels of tumoral cell-free DNA in non-small cell lung cancer patients. Oncotarget. 2018 7) Ito K, et al. Postoperative re-irradiation using stereotactic body radiotherapy for metastatic epidural spinal cord compression. J Neurosurg Spine. 2018 8) Ogawa H, et al. Re-irradiation for painful bone metastases using stereotactic body radiotherapy. Acta Oncol. 2018 9) Karasawa K, et al. Accelerated Hypofractionated Radiotherapy Versus Stereotactic Body Radiotherapy for the Treatment of Stage I Nonsmall Cell Lung Cancer—A Single Institution Experience With Long-Term Follow-Up. Technol Cancer Res Treat. 2018 10) Ito K, et al. Stereotactic Body Radiotherapy for Spinal Metastases: Clinical Experience in 134 Cases From a Single Japanese Institution. Technol Cancer Res Treat. 2018
	今後行う 研究と 研究体制	<p>見込みも含む</p> <ol style="list-style-type: none"> (1) 転移性脊椎腫瘍の定位放射線療法 (2) 少数個転移病変に対する定位放射線療法もしくはIMRT (3) 白血病の造血幹細胞移植に先立つ全骨髄照射 (4) 子宮頸癌の定位放射線療法を用いた化学放射線療法 (5) 甲状腺癌の治療に関わるCTCを用いた遺伝子診断 (6) 肺機能を考慮に入れた肺癌の放射線治療 (7) 各種疾患の免疫チェックポイント阻害剤を用いた定位放射線療法 (8) Radiogenomicを応用した放射線治療の評価 (9) 海馬を温存した全脳照射 (10) 心房細動に対する定位放射線療法
研修項目	<ol style="list-style-type: none"> (1) 外来診療・放射線治療計画に携わるとともに、担当医として入院患者を担当する。 (2) IMRT, SRS, SBRT, IGRT等の技術の習得。 (3) 子宮頸癌の小線源治療の実施、3年間で20件程度 (4) 各種カンサーボードに出席し、積極的に発言する。 (5) 国内外の学会・研究会での発表(年4回以上) (6) 都立病院の臨床経験への応募 (7) 臨床試験のプロトコール立案 (8) 英文を含む論文執筆(年間1編以上) 	
研修内容・達成目標	<ol style="list-style-type: none"> (1) 一般的な放射線治療の技術を復習するとともに、当科の主体である高精度放射線治療の原理と実際を理解、体験し、機に応じて最適な放射線治療が実践出来るようになることを主たる目的とする。 (2) 当科で行われている特殊治療をマスターする。 (3) 放射線治療専門医試験に合格する。 (4) 国内外の他施設に短期留学し、治療技術を習得するとともに知識を深める。 (5) シニア、ジュニアレジデントを適切に指導することが出来る。 (6) 臨床試験、臨床研究を通じてリサーチマインドを養成する。 	
コース内容に関する 問合せ先	唐澤 克之 (東京都立駒込病院 放射線診療科部長) TEL: 03-3823-2101(代表)	